

【編集】公益財団法人 寒風陶芸の里

■ 〒701-4301 岡山県瀬戸内市牛窓町長浜 5092

■ TEL/FAX : 0869-34-5680

■ info@sabukaze.com

し
知りたい!
かぜ
さぶ
こ
よう
せき
ぐん
寒風古窯跡群



寒風古窯跡群って？

どこにあるの？

岡山県の南東にある瀬戸内市と備前市の緩やかな山に、今から1,450年ほど前から約450年間にわたり、須恵器と呼ばれる焼き物を焼いた窯が約130基見つかっています。これを邑久古窯跡群と呼びます。この窯跡群の南端の瀬戸内市牛窓町長浜にあるのが寒風古窯跡群です。

だれが見つけたの？

地元じもとの郷土史家きょうどしの時實黙水ときざねもくすい(1896～1993)さんが、昭和2年(1927)に完全な形かたちのつまみのついた須恵器すえきの杯蓋つきふたを拾ひろったことで、寒風かまの窯かまが発見はっけんされました。これをきっかけに、黙水もくすいさんは須恵器すえきに興味きょうみを持ち、勉強べんきょうして知識ちしきを深め、須恵器すえきの採集さいしゅうを続けました。そして、調査ちようさの成果かをまとめ、寒風かまの窯かまの大切たいせつさを訴うたえてきました。寒風古窯跡群かまが現在げんざいまでしっかり保存ぼんぞんされてきたのは黙水もくすいさんの努力どりよくによるものです。

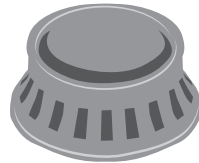


何がある場所なの？

寒風古窯跡群かまは、飛鳥時代あすか(およそ1,400年前)に、須恵器すえきを作っていた場所です。寒風かまには5か所の須恵器すえきを焼いた窯かまや、作った工房こうぼう、さらに、古墳こふん(当時のお墓)が見つかりました。この古墳こふんには、須恵器すえきを作った人たちのまとめ役やくだった人が葬ほうむられていると考えられます。

須恵器って？

須恵器すえきは、古墳時代こふんじだいの中頃なかごろ(およそ1,600年前)に朝鮮半島ちようせんほんとうから伝えられた新しい技術ぎじゆつのロクロかいてんだい(回転台)や窯かまを用もちいて作られました。ロクロによって、大きさのそろった器うつわをたくさん作れるようになり、窯かまを使い高い温度たかおんどで焼くことによって、硬かたく締しまった器うつわを作ることができるようになりました。



どんな須恵器を焼いていたの？

寒風かまの窯かまで多く焼かれていたのは、食べ物たものや供え物そなものを入れる杯つきみず、水みずやお酒さけなどの液体えきたいを入れる甕かめです。ほかにも壺つぼ・平瓶ひらか・皿さらなどが焼かれていました。めずらしいものとして、筆ふでで文字もじを書くために使う硯すずりや、文字もじが刻きざまれたものもありました。須恵器すえきのほか、お寺てらの屋根やねに使つかわれる飾りかざり、瓦がわらの鴟尾しび、焼き物ものの棺桶かんおけの陶とう棺かんが作つくられました。



寒風のすごさって？

寒風かまの窯かまで焼かれた須恵器すえきの一部いちぶは、奈良ならの都みやこに税金ぜいきんとして納められていました。都みやこやお寺てらなど特別な場所とくべつばしょで使つかわれる須恵器すえきを作っていることから、国くにの影響えいぎょうを受けた窯かまだったのでしょう。黙水もくすいさんが採集さいしゅうしたり、調査ちようさで見つけた須恵器すえきは、備前地域びぜんちいき(岡山県の南東部)の年代ねんだいを計はかるものさしとして研究けんきゅうに使つかわれています。昭和61年(1986)には、歴史れきしを考かんがえる上で大切たいせつで価値ちのある場所ばしょとして、国くにの史跡しせきに指定していされました。寒風かまを含む邑久古窯跡群おおくこやうせきぐんで焼かれた須恵器すえきは、時代じだいとともに変化へんかしながら、現在げんざいの備前焼びぜんやきへとつながっていきます。